

令和8年度 鈴鹿市立国府小学校「学校経営の改革方針」

1 めざす学校像（基本理念）

【学校教育目標】

こころ うつくしい つよい こども「国府っ子」の育成
～ 地域とともに「生きる力」を育む学校 ～

【めざす学校像】

- ・児童と職員のウェルビーイングが両立し、教職員・保護者・地域が「こころ うつくしい つよい おとな」として「国府っ子」の手本となる学校
- ・学校から地域への貢献は、将来の地域を支える宝である「国府っ子」の育成（スクールミッション）

2 めざす生徒像

- こ**：こころ 自分を律し、他者を敬い、磨き続ける心（豊かな人間性）
う：うつくしい 「よりよくありたい」という、誰のこころにもある願いや思い
その願いや思いを形にするために、真摯に学び試行し続ける姿
（確かな学力）
つ：つよい 「よりよくありたい」という願いや思いを実現するための、意志
と心身の基盤
困難に直面しても、自分の願いをあきらめないしなやかな強さ
（健康・安全）
こ：こども 本校すべてのこどもたち

- （1）義務教育6年間の集団生活を通して、発達段階に応じた人間性・社会性・学力を身につけ、自分の「こころ」と向き合い、よりよく生きようとするこども
- （2）「国府っ子」としての自分をメタ認知し、自分と他者のウェルビーイングを理解し大切にすることも

3 現状と課題

- （1）学力保障・学力向上について
「わからない」の認識と対応が不十分
児童：勉強がわからない⇒自己肯定感が上がるわけがない
教師：児童のわからないがわからない⇒みとる力の甘さ＝指導力の弱さ
新たな教育へ変化のスピード速さと情報量の多さに教員の対応が追い付かない
- （2）不登校対策について
保護者に支援が必要な家庭は教育力が脆弱⇒遅刻欠席増加に直結
- （3）人権教育の充実について
・「学力保障＝人権尊重」の認識が不十分
・相手によって態度を変えるこどもの存在
- （4）校区及び地域連携と協働について
[校区連携と協働] 前年踏襲ベースで目指す校区の姿があいまい
[地域連携と協働] 地域の支えは厚いが連携や協働というには教職員や児童の意識が受け身

(5) 信頼される学校と働きやすい職場づくりについて

[信頼される学校] 教育公務員としての認識と使命感が甘い

[働きやすい職場づくり]

- ・ 担任の責任が重く大きく一人で抱えやすい⇒報連相の遅れ
- ・ 役割（分掌）が個に与えられており協働しにくい⇒個業
- ・ 経験・年齢・雇用勤務形態が多様な職員構成⇒役割の偏りと心理的な遠慮
- ・ 社会や保護者のニーズ変化による、「これまで」が通用しない対応の難しさ

4 重点目標

組織対応の徹底

- (1) 組織改編：二部制・学年部制へ
- (2) 人権教育と非認知能力育成に基づく組織的教育
- (3) 柔軟な教科担任制と学年チーム担任制の部分的導入

5 本年度の具体的行動計画

非認知能力の育成 研修部と生徒支援部が両輪で非認知能力を育成

研修部 学力保障＝人権尊重で盤石な学習基盤づくり

やり抜く力 ⇒ 基礎基本徹底、モジュール活用

自己肯定感 ⇒ 勉強がわからないを放置しない！

学習の現在地を明らかにする指導と評価

情報活用能力指導と学習規律徹底

生徒支援部 国府っ子を育む特別活動で盤石な生活基盤づくり

社会性 ⇒ 無言清掃、適切な SNS 利活用、学級規律、生活規律

自制心 ⇒ 安全安心な学校生活

(1) 学力保障・学力向上 勉強がわからないでは自己肯定感は上がらない

- ・ 「後手、先延ばし、見逃し」をしない「予防、先手」の指導

＜予防＞モジュール活用による基礎基本徹底

学習（指導）の現在地を明らかにする指導と評価を目指す授業改善

（個別協働や複線型の一体的な学び、SP 表、到達度確認教材の活用）

＜先手＞総合的な学習の時間で「情報」着手（端末活用スキルの指導）

⇒教科指導充実（端末活用スキルの指導でなく活用を）

教科担任制による組織的指導で OJT と授業改善の横展開

（校内研修の日常化）

(2) きめ細かな対応と不登校対策 指導の方向性を学校・こども・保護者が共有

- ・ 教科担任制、部分的学年担任制導入（組織的な指導と学年チーム対応）
- ・ 関係機関との積極的な連携（保護者支援のニーズを行政や関係機関と共有）

(3) 生徒指導の充実 卒業見据え学年相応の社会性と人間性を育成

- ・ 学年部がチーム担任制で足並みをそろえた学級規律、生活規律指導

- ・ 特別活動で「集団としての自分」と「個としての自分」の在り方指導
- (4) 小中一貫教育を見据えた小中連携の推進
 - ・ 研修長のつながりを強化し、授業改善の協働の仕組みを機能させる
 - ・ 校区で授業を開き、互いが学びあう仕組みをつくる
 - ・ 小学校が中学入学時のこどもの姿を共有し、共通取り組みを行う
- (5) 働き方改革と働きやすい職場づくり
 - ・ 困り感をアウトプットできるしくみづくり **休職者0を目指す**
⇒役割を組織が受け持ち、個業の働き方を組織改革で協働の働き方に
 - ・ ウェルビーイングを理解し大切にする職員の育成
(周知指導を管理職から⇒教育のプロフェッショナル集団を目指す)
 - ・ 設定した日の定時に退校できた職員の割合 100%
 - ・ 放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 100%
 - ・ 交通事故 0 を目指す
 - ・ 年 360 時間、月 45 時間を超える時間外教職員 0 人を目指す
 - ・ 1 人当たりの月平均時間外労働時間を 30 時間以下を目指す
 - ・ 1 人当たりの年平均休暇取得の目標日数を前年度比増を目指す